

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立新居浜西高等学校 (定時制)

学校番号 (5)

教育方針	「一人一人を見つめた、さわやかな教育の推進」を目指す。 さ 支えあう心や自己を肯定する心を育み、豊かな人間性をもった生徒を育成する。 わ 分かる授業の実践により確かな学力の定着を図る。 や やる気をもって物事に取り組む姿勢や自ら向上に努める態度を身に付けさせる。 か カウンセリングマインドをもって生徒と接し一人一人を見つめた支援を行う。	重点目標	1 学力向上とキャリア教育による、生徒の進路実現を達成する。 2 基本的生活習慣の確立、コミュニケーション能力の育成による生徒の社会性の向上を目指す。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	生徒の実態に応じた学習指導	生徒一人一人の実態に応じた指導を行い、生徒学校評価において「分かる授業率90%以上」を目指す。〔A:95%以上, B:94~90%, C:89~80%, D:79~70%, E:69%未満〕	B	生徒学校評価(分かる授業率)が94.4%であり、授業見学者からは、雰囲気がいよと好評であった。	多様な生徒に対して分かる授業となるために、一人一台端末を積極的に活用し、授業内容を工夫する。
	単位制高校の特質を生かした三修制の推進	定通併修・学校間連携単位修得及び高卒認定試験合格率75%以上を目指す。〔A:80%以上, B:79~70%, C:69~60%, D:59~50%, E:49%未満〕	B	高卒認定試験は100%であったが、定通併修66.7%、学校間連携66.7%であった。	しっかりと心構えを持って受講させ、個別に補習等を行い、修得・合格できる学力を身に付けさせる。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	出席率90%以上を目指し、一人あたり年間遅刻回数5回以下に抑え、基本的な生活を送ることができるように指導する。〔A:95%以上, B:94~90%, C:89~80%, D:79~70%, E:69%未満〕	C	一部の生徒が遅刻が多く、出席率は87.0%であった。生徒、保護者と面談を行い、改善を促した。	基本的生活習慣が身に付くよう適切な指導を行い、保護者との連携を深める。
	個別面談の充実	年間5回以上の個別面談を実施し、生徒の実態を把握し、それに応じた指導を行う。〔A:6回以上, B:5回, C:4~3回, D:2回, E:1回〕	B	定期的な個別面談以外にも適宜面談を行い、生徒へきめ細かな支援を行うことができた。	生徒の心に寄り添う指導を行い、教員間で適宜情報交換をする体制を整える。
	コミュニケーション能力の育成	学校行事への出席率90%以上を目指すなど、学校行事への積極的参加を促し、集団行動への適応能力を向上させる。〔A:95%以上, B:94~90%, C:89~80%, D:79~70%, E:69%未満〕	C	学校行事への出席率は87.8%であったが、生徒会を中心に企画し、どの生徒も仲間と協力して意欲的に取り組めた。	今後も生徒会を中心に、生徒主体の魅力ある行事を企画・運営していくよう支援していく。
		生活体験作文を作成し発表するなど、自己を振り返り行動を見直す場を年1回以上設け、コミュニケーション能力の育成を図る機会を増やす。	B	発表を通して自分に自信を持ち、学校行事に参加できるようになった生徒や成績の向上見られる生徒が現れた。	生徒一人一人の個性に応じた声掛けをしていく。

進路指導	進路指導の充実	進学・就職希望生徒の面接指導を定期的に行い、キャリア教育講座を年6回以上実施する。〔A:6回以上, B:5回, C:4~3回, D:2回, E:1回〕	A	キャリア教育講座を7回実施することができた。外部講師も積極的に招き、充実した学習を行うことができた。	学習した内容を希望する進路の実現につなげられるよう工夫する。
		卒業生の希望進路実現100%以上を目指す。〔評価A:100%, B:99~80%, C:79~70%, D:69~60%, E:59%未満〕	C	卒業生の希望進路実現について75.0%であった。一人一人希望する進路実現に向けて丁寧に指導を行った。	1年次から系統的かつ計画的な進路指導を行う。
人権教育	豊かな人間性の育成	自己肯定感を高め、自他の人権を尊重することができる人を育てる。また、人権・同和教育ホームルーム活動のほか、各教科の授業等においても指導の充実を図り、差別や偏見、いじめを許さない心の育成を図る。指導の充実度の評価において、「大変よくできている」「よくできている」を合わせて <u>80%以上</u> を目指す。〔評価A:80%, B:79~70%, C:69~60%, D:59~50%, E:49%未満〕	A	「大変よくできている」「よくできている」を合わせて94.4%であった。人権・同和教育ホームルーム活動等の活動後に振り返りを行うことにより、人権尊重の意識を高めることができた。	日常生活においても人権を尊重する行動ができるよう人権意識の高揚を図る。
業務改善	適切な勤務時間	教職員が勤務時間を守り、心身を休ませる休憩時間を確保する。	C	勤務時間は守られているが、休憩時間が十分に確保できない教員がいた。	休憩時間が確保できるよう配慮する。
	職場環境の整備	業務分担において担当者を複数配置し、業務の効率化を図り、有意義な研修体制を整備するなどして、教職員の負担軽減を図る。	C	研修体制を整備できたが、業務における教員間の連携に課題が残った。	複数配置している担当者同士が連携できる体制を整える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。